

令和 2 年度 橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会

第 1 回 提言（案）作成チーム会議 内容まとめ

会 議 名	第 1 回 提言（案）作成チーム会議		
日 時	令和 2 年 1 0 月 1 9 日（月）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 5 0 分		
場 所	橋本市役所北別館 入札室		
出 席 者	委 員 （敬称 略）	堀内 秀雄 乾 幸八 前田 陽一郎 田村 亜美 浅野 匡洋 岸田 昌章 東 美樹	【出席委員：7 名】
欠 席 者	委 員 （敬称 略）	薮 祐梨子	【欠席委員：1 名】
事 務 局		政策企画課長補佐 前川 朋久 地域振興係副主査 上原 慎太郎	
次 第	1. 開会 2. 議題 ・提言（案）作成チーム 申し合わせ事項（案） ・チーム会議の進め方（フリー・トーク） ・もくじ（案） ・次回委員会（11 月 13 日）への報告の仕方 ・その他 3. 閉会		
資 料	別紙 1 提言（案）作成チーム 申し合わせ事項（案） 別紙 2 提言書 もくじ（案）		

1. 開会

課長より開会のあいさつ。

2. 議事

(1) 提言（案）作成チーム 申し合わせ事項（案）

- ・提言を作成するのははぐくむ委員会であるため、チーム名は『提案書作成チーム』から『提言(案)作成チーム』に変更する。
- ・『4 事務局』を追加し、『その他』を5に変更する。『4 事務局』の文言は一任
- ・申し合わせ事項には記載しないがチーム内の情報交流にラインを活用し、会議と事務のスリム化を図る。

(2) チーム会議の進め方

- ・コロナ禍で活動に困難等も生じたので、提言案の中身を全員で検討していく。
- ・せっかく協働の条例ができたので前向きに物事を進めていきたい。
- ・条例制定後の一年間で、その具体的な効果を実感できない市民も少なくない。

【A 班（情報共有）】

- ・子ども向けのパンフレットについて進めていたが本年はコロナ禍により教育現場も忙しいため作成は難しい。
- ・今年は『すこやか橋本まなびの日』がないのでアンケートを取って比較することができない。
- ・認知度を上げるためのアクションとして毎年1回の広報や市の Facebook、Instagram かどうか。

【B 班（協働のまちづくり）】

- ・グループとしての活動は停滞しており、今後に関する意見についてもなかなかイメージがつかず困っている。
- ・こどもパンフレットもいいが動画や絵本とかもいいのではないかな。
- ・コロナ禍でもできることを探してやっていきたい。集まらなくても、できること。定期的にニュースなどの配信ができれば。

【C 班（市民参画）】

- ・任期が少ないと感じている。コロナ禍であまり活動ができなかったことから、任期を延ばすことはできないか。時間がなさ過ぎて検証できない。
- ・研修制度があればみんなの情報レベルが揃えられて、スムーズに活動を進められたのではと思う。新委員は情報がない。

【全体意見】

- ・市民活動サポートセンターで動画作成のために使用する部屋を貸してもらえる。また市民活動サポートセンターの団体支援で動画の撮影ができるが利用してはどうか。サポセンの HP にもあげてもらえる。市職員にも動画撮影について、詳しい人もいないのではないか。
- ・協働を行うことで行政の事務が増えているなら意味がないように感じるので、協働をすることで事務のスリム化ができるようなことはないのか。グランドデザイン（全体構想）で目指しているところはそこではないのか。

【まとめ】

- ・コロナ禍で動きにくい提言までのあと 5 か月で今からやれることを委員、行政が協働して提言の素材の整理を行い、行動の方向性を明確にしていく。
- ・各班が活動した日や内容は記録に残しておいた方がよい。コロナ禍のせいで消化不良だということも含めて課題等を調整しておく。
- ・策定委員会は条例ができたなら終わりだったが、本委員会は条例の検証と見直し、2 年任期の最後に提言を提出する役割と責任を有する。
- ・「意欲がある人は再任を妨げない」等の趣旨を提言に反映させることもできる。
- ・もくじの各論は班ごとに担当することとし、キーワードは全体で確認する。
- ・例えば審議会委員の公募率の数値目標なども、アクションプランに設定することも検討すべき。
- ・職員に対して、協働とは何かということをわかってもらわないと広がっていかない。協働を理解していないと只々負担を感じるだけになってしまう。
- ・市民への周知方法として、委員公募もひとつの手段である。
- ・条例ができたことで、委員の男女比、公募率に変化があったのか調査。毎年調査すれば数値比較をすることができる。
- ・条例ができて必要な調査を定期化することが大切だ。統計データを利用して県内の他市町村と比較して客観化できてよい。
- ・委員会の皆さんの提案で小委員会ができたというのは、大変いいことです。

(3) もくじ (案)

1. はじめに

概要や活動の特徴、メンバー、テーマや実施回数など記載する。

2. 条例制定の経過とその後の実施と成果

行政として何がどの程度達成できたのか、数値や経過の年月をまとめて記載する。

コロナ禍の影響であまり活動できなかったなどは正直に書いてもよい。今後の方向性や一步でも進んだこと、ほかの課でもやり始めたことなど。

3. 協働によるまちづくりの推進

市民から見て何がどの程度進んだのかを各班で記載してもらう。

4. 評価と提言

起承転結の結で、良かった点、悪かった点をしっかりと書く。

5. はぐくむ委員会委員からのメッセージ

100文字程度で各委員が記載する。

(4) 次回委員会（11月13日）への報告の仕方

委員会報告（案）を作成する。

議事録と委員会報告（案）を事務局で作成。

提言書は条例策定員会の時のように分厚くある必要はないが、委員になった以上はきちんと報告する責任があるのではないかな。

(5) その他

次回委員会が終わった後にもくじ記載部分の取捨選択、どの項目をだれが書くか割り振りをおこなう。各班から出てもらっているの、3つの項目について分量やトーンについても協議をおこなう。

提言書の提出までの5か月の間に委員としての活動を簡単でもよいので行う。

アンケート、動画の撮影などの案が出ている。

○はぐくむサポーター

- ・サポーターに対する研修会、情報提供、協力依頼ができてない。
- ・メンバーがわからないので集まってみたい。
- ・はぐくむ委員会とはぐくむサポーターのつながりをつくるなにかを。

○アンケート

- ・保健福祉センターへ検診に来る方に対してアンケートを取ってはどうか。
- ・アンケートは定時定点（同じ時に同じ層の参加者）で取らないと数字の比較ができない。サポーターの人に協力を仰いで近所の人5人とかに A4 の1枚くらいのアンケートをとってはどうか。
- ・協働に関するアンケートを職員に対して行ってほしい。
- ・公民館の利用者に対してアンケートをとってはどうか。市民の生の声が聞ける。
- ・はぐくむサポーターへは情報共有の委員から簡単なアンケートを取ってみてはどうか。毎年とることで回答率の上昇や意識付けなどの効果がある。

3. 閉会

以上